資料４

委員からの提出意見

＜中川　梓 委員＞

＜＜国際標準化活動における現状・課題に係る有識者ヒアリング＞＞

＜BSI ジャパン　漆原氏＞

- ✓ BSI/PAS の多くが英国政府主導で開発されているとのことで、BSI/PAS が社会課題に迅速に対応するためのツールとして根付いていることを実感しました。
- ✓ 国際標準戦略部会の議論の方向の１つは、「デジュール標準のみならず、フォーラム標準や独自標準、デファクト標準を効果的に使い分け」なので、BSI/PAS や Flex は非常に参考になります。JSA でも JSA 規格という独自標準があり、国際標準化も可能ですので、その活用が進むよう取り組んで参りたいと存じます。
- ✓ なお、BSI は英国の国家標準機関で、JISC と同じく ISO/IEC のメンバーですが、BSI のグローバルでのご活躍を拝見し、国内における標準化のあるべき形はどのようなものであるか、議論が必要だと思いました。

＜＜国際標準戦略に係る骨子案及び施策について＞＞

＜骨子案＞

- ✓ ２．（１）：国際標準の国内への普及、利用の促進が重要ですので、国際標準の国家標準化(JIS 化)にもふれ、国際標準が国内に広く普及、利用されていることを示すとよいと思います。
- ✓ ３．（１）：いろいろなタイプの標準の使い分けに触れると同時に、ソフトローとハードローがバランスよく組み合わせることの重要性にもふれられているとよいと思います。
- ✓ ３．（２）：各関係者の国際標準活動については述べられているが、社会実装をより意識した書きぶりにするとよいと思います。特に国の役割として、以下を追加することが良いと思われます。
  - ➢ 各省庁が連携して国際標準や JIS などの標準の実装を促進する。
  - ➢ 各国の政府に日本発の国際標準の実装を働きかける。
- ✓ ４．（２）：G)「公共調達における国際標準の活用」ですが、公共調達は一般的に国家規格で行われると思いますので、「標準の活用」とすべきだと思います。

＜施策の整理＞

- ✓ ５つの施策の関連、各省庁の取組みの紐づけが行われ、全体像が把握しやすくなったと思います。
- ✓ 施策に知財事務局が実施するものが含まれており、全体的なとりまとめや監督的な役割が知財局にかかってきていますが、小規模でスタッフにも限りがあるなど、リソース

を考えると実効性に懸念があります。また、他省庁での取り組みと重複するものもあるように思えるので、よく検討いただきたいと思います。例えば、

- 施策分類 2「標準エコシステム整備」について(S7)、「企業と規格・認証・試験・支援機関のミスマッチ解消を図るべく、規格・認証・試験・支援機関の提供サービスの見える化・マッチングを図るプラットフォームの検討を行う」とあるが、METI/JISC での検討が先行して進んでおります。両省で協力して、是非、重複と不一致がないように連携していただきたいと思います。
- 施策分類 3「官民ガバナンス改革」について(S9)、「規格策定・規制引用・認証の一体推進することのメリット・デメリットの整理を行い、一体推進を促す」ことを知財局で計画されており、これは官民ガバナンス改革にとって非常に重要でぜひ具体的で実効性のある提言にまでつなげていただきたいが、本来、ISO/IEC メンバーである JISC（遠藤座長が会長を務められていますが）あるいは METI、ITU 対応をされている総務省が主導すべきではないかと思います。
- 施策分類 4「産金学官連携の強化、司令塔の強化、政府支援策の在り方」について（スライド 15 枚目)、知財局で「官民連携の場」を立ち上げることになっており、ここが全体的な取りまとめを行う司令塔になると思われる。司令塔が継続的にリーダーシップを強く発揮できるようにと考えると、これは JISC 等の専門機関が関与するメカニズムを検討すべきではないかと思います。

✓ 施策分類 3「官民ガバナンス改革」で（資料 2-2/スライド 9 枚目)、日本の現状として「規制における標準や認証の活用が欧州と比べて限られる」とありますが、標準の策定と規制との統合がそもそもの課題とも考えられるので、中長期的見地で日本型ニューアプローチへの転換も考えるべきではないかと思います。

＜モニタリング・フォローアップワーキンググループ＞

✓ モニタリングとフォローアップの枠組みの基本的な考え方は良いと思います。

✓ フォローアップに関しては、今後、指標の検討が行われることになっており、市場規模や市場占有率、コスト抑制などが指標の考え方として挙げられている（S8)。施策の効果をこのような指標で測れればベストだが、一定の考え方が確立していないのが現状で、短期／中期には投資に対しリターンがいくらという世界ばかりではありません。結果として、膨大な作業と調査が行われ、コンサルタントの業務が拡大しただけということにならないように、慎重な議論が必要と考えます。この類の指標を作るためには、しっかりした学術研究と産業界の関与が必要だと思います。

✓ 日本発の国際標準で国外の規制で使用が義務付けられたものや、産業界に採用された事例などについて、実例をフォローしてはどうかと考えます。

✓ なお、管制高地という言葉がありますが（S5)、一般には理解の難しい言葉だと思いますので、わかりやすい表現に修正していただければと存じます。

- ✓ 開示フォローアップ、管理フォローアップ、定点観測の３本立ての構想だが（S7)、開示と管理の区分けはどのあたりでしょうか。判断はどのように行う想定でしょうか。
- ✓ 国内の国際標準化活動のフォローアップに関しては、既に各省庁でいろいろな取り組みに対しフォローアップも行われているので、それらを有効活用することができると思います。新たな指標の導入やモニタリングにより過度の負担となることのないように留意すべきと思います。
- ✓ また、民間の経営に係るような秘匿性の高い情報を収集することには慎重に対応すべきと考えます。
- ✓ なお、WG は非常に実務的で重要な議論の場ですので、議論の公開が望ましいのではないか考えております。
- ✓ モニタリング・フォローアップ機能を持つ官民プラットフォームの構築を目指しているが、参考で提示されている、AFNOR、BSI、DIN などの標準検索機能、専門家データベースなどだけではなく、国内の事例、METI の StanDirectory などがありますが、これらも紹介して、状況をきちんと理解した上で、検討をすべきだと思います。

＜佐久間　一郎 委員＞

■【資料２－２】施策の方向性に沿った各省庁の施策について

- ✓ 医療機器は特に標準と規制が結びついている。海外では医療機器の政府調達が当該国の標準と関連付けられており、日本の医療機器メーカーはその対応に苦慮している。今後、医療機器の日本市場の伸びは期待できないので、海外における政府調達基準への適合が重要になる。このような課題に対し、特に中小企業やスタートアップでは情報もリソースも不足し対応しきれていないため、そこを支援するようなコンサルティングサービス等を戦略的に伸ばしていく必要がある。

■【資料３－１】重要領域についての WG での検討状況について

- ✓ 医療分野における AI 活用などが挙がっているが、基盤としての AI、デジタル、情報通信を、安全が特に重要となる医療システムとどう連携していくかが問題となる。現状では、AI での安全の考え方と、医療システムでの安全の考え方に齟齬がある。医療分野に新規業者が入ってくる際に、AI のセキュリティを守るだけで十分と考えると、医療側のセキュリティを充足しない可能性がある。イノベーションが進んでいる AI やデジタル技術と、医療システムにおける安全がトレードオフになるので、そのバランスを図ることが重要になる。医療機器側に AI の専門家が乏しいので、このギャップの見える化やガイドラインを作ることが必要ではないか。医療機器だけでなくインフラや自動運転などでも同じような課題が生じ得る。

以上